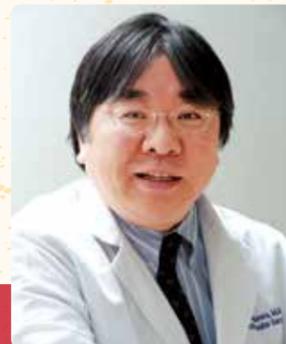


- 理事長就任挨拶、学会重要告知 1面
- 優秀論文賞を受賞して、特別企画報告、フェロー受賞者一覧、第73回学術集会情報 2～3面
- 理事会ニュース (第5・6回、第1回臨時・新旧) ... 4～5面
- 第50回日本心臓血管外科学会学術総会、JATS Academy、編集後記 6面

理事長就任挨拶

今後の揺るぎない発展のために「いま何をすべきか？」



日本胸部外科学会理事長 澤 芳樹

このたび、伝統ある日本胸部外科学会理事長に就任させていただきました。法人化や英文誌IF取得、学術集会及び地方会の活性化など大北理事長を中心とするこれまでの理事会の流れを引き継ぎつつ、一方で、多難な変革期を迎えつつある胸部外科学会が、今後の揺るぎない発展のために「いま何をすべきか?」、微力ながら貢献させていただきたく覚悟でございます。

呼吸器外科領域から始まり諸先輩方のご尽力によりここまで築きあげられてきた伝統ある日本胸部外科学会が70年間果たしてきた重要な役割やLeadershipをいま再び強くし、国際的ブランド力の高い日本胸部外科学会として、その揺るぎない明るい未来のために微力ながら貢献をさせていただきたいと思っております。

胸部外科学会は、3分野の学術的発展はもとより、共通目標の課題解決とその実践を目的として3分野のバランスのもとに運営されてきました。一方、この多難な変革期を乗り越えるためには、本学会と最も強い連携を持つ心臓血管外科学会、呼吸器外科学会、食道学会各学会各分野と連携し議論を深め意見を取り入れつつ、基盤学会である胸部外科学会において3分野が一枚岩となって苦難を乗り越えて達成し発展させていくことが重要と認識しております。そしてその最初の取り組みが、3分野会長制度や学術集会の新しい体制、自主運営化等であると考えております。さらに、日本胸部外科学会がLeadershipを発揮し、3学会以外の他学会も加えた3分野の基盤学会として

総合力と価値をいっそう高め、その魅力から若手胸部外科医にも強く支持され、さらに国際的にもJATSはAATSやEACTS、ESCSとの連携の一角を占めて世界に冠たる国際的ブランド力を有する学会として発展することが今後数年間の目標であると考えます。

この目標達成のため、3つのChanceを生かし5つのMissionを実行すべきと考えました。

1番目のChanceは、一般社団法人化です。これにより、学術集会の改革や種々の事業による財政の一層の安定化と事務局機能の強化に繋がります。

2番目は、IFのある英文誌GTCsであります。IFを向上させその価値を高めつつ、国際化とAcademic Surgeonとして次世代胸部外科医の育成を展開していくべきと考えます。

3番目は、いままさに改革が進みつつある地方会の活性化です。特に地方会と連携強化することは、若手の胸部外科医の育成に繋がります。胸部外科学会のより強固な基盤強化できると考えます。

つぎに、これらのChanceを生かし実践すべき5つのMissionとして、

1番目は、あらためて心臓血管外科学会、呼吸器外科学会、および特に食道学会との連携によって深い議論した上で、各学会の意見を良く取り入れて、これらの学会の基盤学会としての胸部外科学会ですらなる議論と実践によって、3分野が発展することが重要と考えます。

2番目は、胸部外科学会がLeadershipを発揮して種々の学会と強い縦横のネット

ワークを構築し、一方、強い国際連携をはぐくみ国際的ブランド力を高めることが重要であります。

3番目は、次世代胸部外科医の育成が明日の胸部外科発展に重要です。

4番目は、事務局機能のさらなる発展と事業展開等により財政強化を実践すべきと考えます。

5番目は、インセンティブ等の処遇改善と働き方改革を一層すすめる胸部外科医の地位の向上を図って行くべきと考えます。

以上の3つのChance、5つのMissionを中心に合理的運営を行うことにより、これまで70年間培ってきた日本胸部外科学会の重要な役割やLeadershipをいま再び強くし、国際的ブランド力の高い世界に冠たる学会として発展することができると確信しております。

私自身はチームをまとめる最大の努力、そして「お互いに相手の気持ちを思いWin-Winで和気藹々と」と言うのが私のモットーです。これまで外科学会や心臓血管外科学会、日本循環器学会や日本再生医療学会、日本移植学会等で培って

きた各学会での経験や連携、各省庁とのネットワークや政策提言にも活かされればと思います。毛利元就の3本の矢のごとく、3分野が一枚岩になって課題を解決していったら、胸部外科学会の大きな力ははじめて発揮できると思っております。「3分野の最大限の活動発展とその総合力を発揮し、胸部外科学会の学術的発展と合理的運営、次世代胸部外科医育成と国際的ブランドを達成していくために、VisionとLeadershipを持ちChallenging、SustainableそしてToughな胸部外科学会」を構築する。これがこれから数年間の重要な目標と考えております。この達成のために、一体感や達成感が強く深い議論ができるような明るく楽しい未来志向の開かれた学会運営をめざします。これが、日本の胸部外科学会そして外科学全体の発展に繋がります。世界に貢献することができると確信しております。何とぞ、会員の先生方におかれましては本学会へのご理解とこれまで以上のご支援ご厚情をよろしくお願いいたします。

澤 芳樹

所属：大阪大学大学院医学系研究科外科学講座 心臓血管外科学
卒業大学：大阪大学
専門：心臓血管外科学

簡単な経歴：

1980年 大阪大学医学部卒業
2006年～ 大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科主任教授（現在に至る）
2015年～17年 同大学医学系研究科研究科長・医学部長兼任
2016年 厚生労働大臣賞、日本医師会医学賞受賞

趣味：車、映画（特にStar Wars）、司馬遼太郎作品、クラシック音楽
好きな言葉：「先手必勝」「迷ったら難しい道を」「一樹百穫」

重要告知 2019年度評議員会重要決定事項

1. 理事長及び副理事長の交代

大北 裕理事長・横井 香平副理事長の任期満了に伴い、澤 芳樹新理事長・土田 正則新副理事長が選任された。

2. 一般社団法人定款(案)、定款施行細則(案)、一般社団法人会員懲戒規則(案)が承認

- 1) 一般社団法人定款
正会員を専門医会員に変更、評議員会を社員総会に変更、監事の任期を一期2年、再任1回までに変更。
- 2) 定款施行細則
昨年会費値上げ案が承認されているのでその結果を踏まえた年会費を提示、選挙評議員及び推薦評議員数を大幅に増加(併せて430名)、NPO法人の会長を統括会長、副会長を次期統括会長、次期副会長を次々期統括会長に変更し、役員が統括

会長に選任されたら理事長に役員辞任届を提出、役員が分野会長に選任されたら理事長に役員辞任届を提出。

3) 一般社団法人化へのスケジュール

2020年4月1日に登記予定、会員の一般社団法人への移行は第2期事業年度開始日(2020年8月1日)を予定、今回選出された監事の任期は2年、2020年6月に予定されている評議員選挙は一般社団法人の定款に則った選挙で行う。2020年度一般社団法人の損益予算書が承認された。

3. 地方会のあり方

地方会の本会との一体化事業が2020年8月から開始(2021年から会費2000円値上げ)及び関西胸部外科事務局が本会事務局に移管。

4. 学術集会参加費の件

第72回学術集会より正会員の学術集会参加費を5000円割引とする。正会員の会費負担を軽減し、且つ学術集会への参加を促す。(3年間予定)

2019年度 日本胸部外科学会 優秀論文賞

受賞者の声
優秀論文賞を受賞して



限りがあり、限定的な結果になっている部分もありますが一定の結果は示すことが出来たと考えております。多施設共同前向き研究は推進する上でもfollow upの確認などいろいろ大変な点がございませうが、今後も積極的に取り組み本邦におけるevidenceの確立に努めていければと考えております。

最後になりますが、本研究をまとめるにあたり御指導いただきました齋木佳克教授、田林暁一名誉教授ならびに共同研究施設の諸先生方に心より感謝申し上げます。今後も日々の臨床のみならず、research mindをもって心臓血管外科医療に貢献できるよう一層の努力をしていきたいと考えております。

心臓血管外科分野

正木 直樹 (東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野)

Suppressive effect of pitavastatin on aortic arch dilatation in acute stanford type B aortic dissection: analysis of STANP trial

この度は名誉ある胸部外科学会の優秀論文賞に選考いただき、誠に光栄に存じます。査読して頂いた先生方、選考に関わられた先生方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

本論文はスタチンの一つであるピタバスタチンの内服によりB型解離発症後の大動脈径拡大を予防できるかどうかを検証した多施設共同前向き研究 (STANP

trial) をまとめたものになります。B型解離の治療において降圧安静療法が未だ標準的ではありますが、その中におけるスタチン内服の意義に関しては十分に明らかになっておりませんでした。スタチンはMMP産生抑制等の抗炎症作用を有することが報告されており、機序の一部として炎症が関与するB型解離発症後の大動脈径拡大の予防にスタチンが寄与するの

ではないかということに着目し臨床研究を開始しました。治療介入群では総コレステロールやLDLコレステロール値の有意な低下のみならず、B型解離発症後1年時における遠位大動脈弓部の瘤径拡大が抑制される結果が示されました。心臓血管外科領域において頻用されているスタチンですが、解離後の瘤径拡大予防に寄与することが示されたことで、更に適応範囲が広がっていくのではないかと考えております。症例数に



正木 直樹
所属施設：東北大学心臓血管外科
卒業大学：東北大学
略歴：
2008年 東北大学医学部卒業
2008年 山形県立中央病院 臨床研修
2010年 山形県立中央病院 心臓血管外科
2011年 鶴岡市立荘内病院 外科
2012年 山形県立中央病院 心臓血管外科
2013年 東北大学医学系研究科 心臓血管外科学分野 大学院
2017年 宮城県立こども病院心臓血管外科
趣味：釣り、アウトドア
好きな言葉：Every day is a new day.

心臓血管外科分野

矢嶋 真心 (大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科)

Multiple coronary stenting negatively affects myocardial recovery after coronary bypass grafting

この度は名誉ある胸部外科学会優秀論文賞を受賞させて頂き誠に光栄に存じます。査読頂きました先生方、並びに選考に関わられた先生方にこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。

私は以前より心筋再生療法に興味を頂いておりました。そこで、虚血性心筋症に対する冠動脈バイパス術後の心筋回復の程度に個体差が大きいことに注目し、回復の程度が小さいものは、やはり術後心関連合併症が多いことを臨床経験として実感しておりました。その事象を検証した結果、その臨床感覚と一致して術後

心不全再入院が多いことがわかりました。では、どのような心筋状態が術後の心筋再生を阻害するのかということを検証した結果、左室が拡大している症例、つまりは左室リモデリングが進行している症例では術後心筋回復が悪いということが明らかになりました。さらに興味深いことに「PCIの既往歴」が影響していることが示され、細かく解析した結果、ステントの個数が多いほど心筋回復が阻害されることがわかりました。これはいわゆる「フルメタルジャケット」の冠動脈を表しており、その画像を見た外科医

なら誰しもが「ここまでする前になぜCABGの選択をしなかったのか？」と疑問に思う冠動脈像だと思います。今回、「フルメタルジャケット」の冠動脈に対する冠動脈バイパス術では、心筋回復は望めず、ひいては術後遠隔期の予後にも悪影響を及ぼすことが科学的に証明されたことは、我々外科医にとって非常に有意義な結果であり、症例のゲートキーパーである内科医に対するメッセージとしてインパクトのある研究内容であったかと自負しております。本研究はあくまでも後方視的研究であり、症例数も限られておりますが、本研究を礎としてさら

にエビデンスレベルの高い研究へとつなげたいと考えております。

最後になりますが、澤教授をはじめ多数の諸先生の御指導を頂きながら、研究結果を論文化すること出来、名誉ある賞まで頂く事が出来たことに深く感謝申し上げます。これからも真の“Academic Surgeon”となるよう、日々の臨床及び研究に邁進していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



矢嶋 真心
所属施設：国立循環器病研究センター
卒業大学：島根大学医学部卒業
経歴：
2007年 大阪医療センター 臨床研修医
2009年 大阪医療センター 心臓血管外科 専修医
2011年 東宝塚さとう病院 心臓血管外科 医員
2013年 大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科
2018年 JCHO 大阪病院 心臓血管外科 医長
2019年 国立循環器病研究センター 心臓外科 医員
趣味：スポーツ観戦
好きな言葉：無知の知

呼吸器外科分野

中西 良一 (名古屋市立大学大学院医学研究科 生体防御・構造医学専攻 病態外科学講座 腫瘍・免疫外科学分野)

Early chest tube removal after thoracoscopic lobectomy with the aid of an additional thin tube: a prospective multi-institutional study

この度は名誉ある2019年度日本胸部外科学会優秀論文賞に選考いただき、誠にありがとうございます。査読ならびに選考いただきました先生方や理事の先生方に心より御礼申し上げます。

この論文は、肺葉切除後の胸腔ドレン抜去時期に関して、教科書に書いてあることが科学的に立証されたものではなく、経験に基づいた伝承であったことに気付いたことがきっかけとなり、まず単施設前向き研究を行った成績をJ Thorac Cardiovasc Surgの2009年6月号に発表

し、その後さらに多施設前向き研究を企画して、その結果を今回まとめたものであります。

従来、肺葉切除後にエアリークがなく、濃血性や乳糜・膿状の排液さえなければ、100~250mL/日以下の排液量となる術後4~7日目に胸腔ドレンは抜去されておりました。しかし術後外来において、患者の胸腔内死腔がかなり大きくても、時間とともに消失することは多くの症例で認められておりましたので、上記諸条件が揃えばドレンを早めに抜いても問題が

ないのではないかとという着想に至りました。また内視鏡手術の増加に伴い、Fast Track Surgeryという概念が浸透しつつあったため、術後1日目に抜去するという設定とともに、患者に不利益が及ばないようにback-up tubeの挿入を行って研究を開始しました。その結果、単施設前向き研究の時と同じく、術後合併症は術後1日目までの排液量とは関係ないことが判明しました。現在、多くの臨床現場

で実践されており、患者の早期退院や早期社会復帰に繋がっていることにたいへん満足しております。

業務柄、論文を指導することはあっても自分で書く機会は減ってしまっていたので、今回の受賞が「高齢者でも賞が取れる」というモチベーションを与えていただいたことに大変感謝致しております。最後になりましたが、この場を借りてお世話になりました先生方に深謝申し上げます。



中西 良一
所属施設：名古屋市立大学大学院医学研究科 生体機能・構造医学専攻 病態外科学講座 腫瘍・免疫外科学分野
卒業大学：産業医科大学
経歴：
1985年 産業医科大学医学部卒業
1992年 産業医科大学病院第二外科学 助手
1997年 産業医科大学病院第二外科学 講師
1999年 国家公務員共済組合連合会新小倉病院 外科
2015年 国家公務員共済組合連合会新小倉病院 副院長
2015年 名古屋市立大学大学院医学研究科 生体機能・構造医学専攻 病態外科学講座 腫瘍・免疫外科学分野 主任教授
趣味：ドライブ、旅行
好きな言葉：結果が全て

食道外科分野

中島 政信 (獨協医科大学 第一外科)

Salvage esophagectomy combined with partial aortic wall resection following thoracic endovascular aortic repair

この度は名誉ある日本胸部外科学会優秀論文賞にご選考頂き、誠に光栄に存じます。ご査読頂いた先生方、並びにご選考に関わられた諸先生方に心より御礼申し上げます。

本論文では大動脈浸潤食道癌に対する化学放射線療法後の食道切除および大動脈壁合併切除に関する手技と成績について発表させて頂きました。この治療を初めて行った当時、大動脈瘤に対する治療として広まった大動脈ステント内挿術が

食道癌の大動脈浸潤に対する出血対策として施行されたという報告を散見するようになっていました。それ以前に我々は、大動脈浸潤食道癌に対して根治的放射線療法を行い、その後やはり浸潤が疑われて手術を断念する、あるいは手術を行っても結果的に浸潤があり、やむを得ずR2切除にとどめるという症例を時々経験しており、非常に悔しい思いをしておりました。そういった背景から大動脈ステントを使用することでR0切除を安

全に行えれば治療成績の向上につながるのではないかと思います。実施することになったのが本術式でした。このような治療は適応も厳密にしているため症例は非常に少数ですが、4例まで実施した時点で報告をさせて頂きました。周術期合併症に関してはあまり問題がないと思われませんが、残念ながら局所以外で再発し、死亡された症例もありますので症例選択の適正化が今後の課題であると思われれます。今後、より多くの症例数で再検討し、本学会等を通じて発信して行きたいと思っております。

最後になりますが、

本手術の施行および論文作成に関してご指導を頂きました加藤広行先生、福田宏嗣先生並びに獨協医科大学第一外科、心臓・血管外科の先生方に心より感謝申し上げます。今後も日本胸部外科学会の発展に食道外科医として貢献できるよう精進して参りたいと存じます。



中島 政信
所属施設：獨協医科大学 第一外科
卒業大学：群馬大学
経歴：
1998年 群馬大学医学部卒業
1998年 群馬大学第一外科 入局
2001年 群馬大学大学院 入学
2004年 群馬大学大学院 卒業
2004年 群馬県立がんセンター消化器外科
2007年 群馬大学大学院病態総合外科 助教
2009年 獨協医科大学第一外科 助教
2010年 獨協医科大学第一外科 講師
2012年 獨協医科大学第一外科 准教授
趣味：ゴルフ、スキー
好きな言葉：正しいことを正しく

第72回日本胸部外科学会定期学術集会 特別企画開催報告

学会企画3「働き方改革、処遇改善、チーム医療合同特別企画」

『医師の働き方改革・2024問題』

チーム医療推進委員会・委員長：坂本 喜三郎 (静岡県立こども病院)

座長・坂本から“人類史上前例のない少子高齢化と生産年齢人口の減少が進む日本で働き方改革が叫ばれている背景とその流れに沿った医療領域三位一体改革（働き方改革、医師偏在対策、地域医療構想）”についての俯瞰的まとめがあり、他領域に比べ時間外が圧倒的に多い胸部外科医・その働き方改革の着地点をどう設定すべきかを問う形で特別企画が始まった。各講演と総合討論の内容を座長目線で纏め、報告とさせて頂く。

① 馬場 秀夫先生 (外科学会労働環境改善委員長)

“若手医師が外科、産婦人科などの勤務時間の長い科を選択しない傾向”と“20代、30代外科医の4割は3000時間を超えている現状”を提示。長時間労働は正に向けての病院と医師の意識改革のもと、タスクシフト、特にパッケージ化研修・特定行為限定区分対応看護師の養成とその活用について報告。

② 加藤 琢真先生 (厚労省)

長時間労働に伴う悪影響（連続勤務時間延伸に伴う作業効率悪化と短時間睡眠に伴う作業 Quality の劣化など）を例示し、働き方改革の意義を説明。個別情報として、宿日直・自己研鑽、(B)、(C) 時間外特例、特定行為パッケージ化研修推進について厚労省の考え方を提示。

③ 高木 靖先生 (藤田医科大学)

2012年から始めた大学院型研修（2年間）・特定行為全21区分対応看護師 Nurse Practitioner (NP) の養成経験と卒業生41名の現状を報告。特に、同大心臓外科に所属する2名の働きぶりを詳細に提示し、NP導入のメリットを報告。

④ 安藤 秀明先生 (秋田大学)

医師不足とその偏在に直面している秋田県の現状と近未来の課題「急性期病棟の集約化に伴う患者集中と慢性期病棟の医療の高度化」を提示。対応策として“両方の現場でシームレスに対応可能な全区分対応型 NP”の養成を推進していくと報告。

⑤ 森田 茂樹先生 (九州医療センター)

経営者の視点で医師の労働時間を検討し、医師の労働は“時間短縮困難な手術、処置・検査”が多くを占め、特に胸部外科は手術時間が長い実態を提示。病院としてタスクシフトを進めようにも看護師配置基準と人件費の壁に加えて人員確保の困難さ（看護助手は応募者もない）があり、危機的と報告。

『総合討論』

特定行為全区分対応 NP が実際に働いている藤田医科大学と九州医療センターからは「NPの存在意義とその有効性」が、秋田大学からは地方医療を支えるための全区分対応 NP 養成の意味が、改めて論じられた。全区分対応 NP、パッケージ化研修・限定区分対応看護師について参加者に問うたところ、9割が“全区分対応 NP を導入したい”と挙手した。フロアーから『現在の方針で働き方改革を進めると、日本が誇る“患者に貢献できる胸部外科医療の質”（短期的視点は勿論、教育も含めた長期的視点でも）を保てるのか懸念がある』とのコメント（元日本心臓血管外科学会理事長・高本先生）があった。

2019年度フェロシップ受賞者一覧 (敬称略・順不同)

日本胸部外科学会 国際委員会では2019年度 JATS フェロシップ、並びに JATS/AATS Foundation Fellowship を募集し、審議選考を行いました。受賞者は次の通りとなります。(日本胸部外科学会 国際委員会)

2019年度 JATSフェロシップ

心臓血管外科分野 (2名)	田中 千陽 (東海大学医学部付属八王子病院 心臓血管外科)
	山内 早苗 (大阪大学医学系研究科 心臓血管外科)
呼吸器外科分野 (2名)	三好 健太郎 (岡山大学病院 呼吸器外科)
	小池 輝元 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸循環外科学分野)

2019年度 JATS/AATS Foundation Fellowship

心臓血管外科分野 (2名)	井上 陽介 (国立循環器病研究センター病院 血管外科)
	板垣 翔 (自治医科大学附属さいたま医療センター 心臓血管外科)
呼吸器外科分野 (1名)	栢分 秀直 (京都大学医学部附属病院 呼吸器外科)

第73回日本胸部外科学会定期学術集会
Future Prospective

会期：2020年10月28日(水)～31日(土)
※11月1日(日) AATS/JATS Mitral Conclave
会場：名古屋国際会議場 〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号
会長：碓氷 章彦 (名古屋大学大学院医学系研究科 心臓外科学)
分野会長(呼吸器)：長谷川 誠紀 (兵庫医科大学 呼吸器外科)
分野会長(食 道)：丹黒 章 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

演題募集期間 (予定)

2020年3月4日(水) 正午～5月8日(金) 正午

※公募演題詳細等はホームページで随時更新してまいりますのでご確認ください

主催事務局：名古屋大学大学院医学系研究科 心臓外科学
〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
Tel：052-744-2376

学術集会事務局：特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-27 テラル後楽ビル 1F
E-mail：jats-gakkai@umin.ac.jp

1. 各種委員会報告及び審議事項

(1) 理事会

1) 名誉理事長・名誉会員・特別会員推薦
名誉理事長候補者1名、名誉会員候補者1名、特別会員候補者4名を推薦する。

2) J-MACS報告のGTCS掲載と費用負担
J-MACS Reportは引用が多く、Impact Factorにも貢献する。定期的な掲載及び著者15名の掲載は承認。Open Access費用についてはJ-MACS委員会内で再考する。

3) 韓国胸部外科学会との交流
前向きに考えることで承認された。今後、契約書と覚書を取り交わす。

4) 日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会との事務局合同

8月中旬に3学会理事長の話し合いが行われる。
5) 経カテーテルの大動脈弁置換術関連学会協議会からの名称変更と構成学会追加承認
協議会名称を「経カテーテルの心臓弁治療関連学会協議会」へ変更及び小児循環器学会加入の件が提案され、本理事会で承認した。

報告事項

1) ASCVTSとJATSとの協力

アジア心臓血管外科学会理事長から、協力依頼がありMOUを取り交わしたことが報告された。

2) 日本循環器学会からの学術集会プログラム検討カテゴリメンバー推薦依頼
「弁膜症」のカテゴリに委員推薦依頼があり、竹村理事を推薦した。

3) 川崎病性冠動脈瘤の指定難病へ疾病追加申請賛同する旨の回答をした。

4) 日本医学会連合定時総会

2019年度事業計画及び予算、2018年度事業報告及び決算、2019年度会費徴収、役員選挙結果が報告された。

5) 日本医学会主催「第5回研究倫理教育研修会」
日本医学会連合研究倫理委員会、同診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会主催で開催された。

テーマは「アンケート調査による現状と今後の課題」で、講演は学術データは誰のものか、日本医学会医学雑誌編集ガイドライン第2版、国際的なCOI管理の現状と動向などの8項目である。学術データは誰のものかではOMICS出版社に罰金50億円、ガイドライン第2版では加筆が必要と思われる事項について報告された。また、日本外科学会では臨床研究法におけるQ&Aが現場の裁量権を奪っていることから日本医学会連合の倫理委員会と各学会倫理委員長とで数回の会合を持ち、今の臨床研究法が現場に少しでもやりやすい形にしてほしい旨の要望書を厚生労働省に提出することになっている。一方で全国医学部部長会議はアンケートを行い、厚生労働省と懇談予定である。更に「日本外科学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針(令和元年7月9日改訂版)」が提出され、日本外科学会ではこの改訂版に則って第120回学術集会(2020年)の演題応募から採用される。本会は、2020年の第73回から開始するが、あくまでも自己申告で、中身まではチェックはしない予定である。

6) スtentグラフト実施管理委員会

法人化に対して、役員選出規程(案)が届いたので、承認で回答する。

(2) 総合将来計画委員会

報告事項

1) 「食道外科専門医」申請要件から、本会会員であることの条件が削除された件

経緯と意図について説明があり、今後の本会における食道外科会員の動向予想は、若干の会員数の減少はあるものの大幅な会員数の減少には至らない。食道外科専門医を呼吸器外科専門医から取得できる制度を今後も維持することを承認した。食道外科会員数の維持と新規獲得については、本会プログラムの工夫が必要であり、食道外科専門医の要件にある手術ビデオ審査のためのセミナーを本会でを行い、Postgraduate Courseや困難症例検討会など他学会の食道セッションとの差別化を図る。食道分野会長の継続はプログラムを任せているので、上記の内容を進展させやすい。

2) 2020年評議員選挙

来年度は一般社団法人として認められる予定であり、一般社団法人の定款で評議員選挙が行えるよう登記を前倒しの要望がだされた。

3) 学術集会担当者採用



学術集会担当事務員2名の採用を決定した。

(3) 専門医制度委員会

1) 心臓血管外科専門医認定機構

第3回機構総会での決定事項として、2020年から専門医更新条件に指導医講習会受講を必須条件、認定登録医の申請料は30,000円、心臓血管外科専門医制度施行細則・認定登録医制度規則及び施行細則の承認、発表で有効となる学術総会は演題に査読制度のある日本医学会加盟学会がそれに準ずる学会、日本外科学会に経験症例数の中で血管内治療などの低侵襲治療は必要症例数の半数までと要望する。

2) 呼吸器外科専門医合同委員会

呼吸器外科専門医制度規則・施行細則の改正、本年秋に新専門医制度による専門研修施設の応募開始、専門研修幹事施設の手順(申請→審査→地域性を考慮し申請のない都道府県の大学へ連絡)、第10回アジア胸部外科クラブ(ATSC)(2019年9月27日～29日開催)の参加を専門医資格更新の単位として承認する。

(4) 正会員選出委員会

前回の理事会にて報告・承認された63名の申請者全員に2019年8月1日までに正会員の委嘱を行う予定である。

(5) 会誌編集委員会

GTCS Impact Factor 2018は1.219、新規投稿状況(Original 134編、Case122編)、Accept数(Original 59編、Case31編)、Case ReportのAccept率は目標通りの30%、掲載数状況(Original 40編、Case20編)、Special issue肺がんとして第2弾を準備中、Best reviewer賞の選定(2018年、2019年は数で評価、2020年からは質の評価も含まれる、2018年6名の候補者)、Reviewerの再検討などが報告された。

(6) 学術委員会

1) Annual Report 2017

心臓領域は項目確認中、呼吸器領域は調査集計が完了、Report作成済み、食道領域は調査集計完了し、Report依頼済み。

2) Annual Report 2018

心臓領域は2017年の解析項目に従い、解析を行う。呼吸器領域はNCDサイトでの集計報告が完了し、最終集計データを作成中。食道領域は2018年集計よりNCDデータを利用した集計について、NCDサイトで集計中である。

3) JCVSD論文

Annual ReportとJCVSD解析論文について、データソース及び解析者も同じであるので、委員会としては一本化を希望している。学術委員会では呼吸器及び食道を含めて方向性を決める。

4) 原発事故と先天性心疾患関連論文への反論
相馬市長から経産省へ働きかけを行っていただいた。反論となる論文をデータ利用し作成しJHAに投稿予定である。

(7) 学術集会委員会

1) 第72回学術集会クレジット付与対象の検討
専門共通講習としてシンポ「胸部外科とiPS・再生医療」、ワークショップ「専門医に必要な英語を考える」、医療安全講習会、外科領域講習として「学会企画1～3」、パネル「ダビンチ時代の胸部外科」、ワークショップ「胸部外科における3D画像と3D模型」及び「胸部外科とCadaver Surgical Training」、そして「3分野のPostgraduate Course」を承認した。また、心臓領域は指導医講習会として学会企画の「胸部外科と専門医制度」を認定する。

2) 第72回学術集会

総演題総数1,432題、採用1,282題、採用率77%で、現在各プログラム委員長が各セッションの座長を選出中、事前登録が開始中である。

3) 第73回学術集会

レジデントフォーラム(仮名)を企画していることが提案された。概要は専門医取得前の専攻医が対象であり、各地方会からの優秀な症例報告を推薦いただき、セッションを形成し、審査員による審議で優秀賞を決定し表彰するもので

ある。レジデントクラスの演題発表が学術集会では少ないため、本会への関心を高め、更に地方会への演題応募を活性化させる目的である。前向きに考えることを承認した。

4) 第74回学術集会(志水次期副会長)

学術集会日程は2021年10月31日～11月2日まで、11月3日Aortic Symposiumを開催予定である。

(8) 財務委員会

公認会計士の監査は規模としては必要ないとのこと審議した。公認会計士の監査がなくなることは、より監事の責任が大きくなるが、結論として本年度から公認会計士の監査をなくすることを承認した。

(9) 倫理・安全管理委員会

2施設への外部委員派遣依頼、心臓血管外科ライブ手術届出1件を受理で新しいガイドラインを作成中、医療安全調査機構定期社員総会などが報告された。

(10) 診療問題委員会

2020年度保険改訂に向け「経カテーテル大動脈弁置換術」について改正要望を行っているが、そのヒアリングが2019年7月30日に行われる。

(11) 研究・教育委員会

1) JATS Academy

ビジュアルスライダー、周知ページを設置し、認知度向上のためニュースレターに1月号から連続で記事掲載中。理事長がメッセージを寄稿し、現在制作中である。

2) JATS Research Project Award

第2回支援状況は2019年7月17日現在で140万円、第1回繰越金5万円を加算すると、残すところ105万円必要。ニュースレター5月号に第1回寄付金支援企業一覧に掲載したことを支援メリットとして第2回申込みの6社に対して再度アプローチ予定である。

3) NCD臨床研究推進委員会「NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題募集のお知らせ」

学会からNCD臨床研究推進委員会に対して申請書を提出予定であるが、昨年本会を通さなかった申請が1件あったことを踏まえ、公募の応募期間を前倒しする。

4) サマースクール

本年度は両分野とも2019年8月17日(土)、8月18日(日)に開催予定である。

(12) 広報(Homepage-Internet)委員会

学会HPのバナー広告掲載、News letter掲載内容、学会HPリニューアルの進捗、会員への一斉送信メールについて報告された。

(13) 総務・渉外委員会

カード型会員証の発行停止並びにスマートフォン型会員証の導入が第72回学術集会から運用開始となる。

(14) 臓器移植委員会

心臓移植、肺移植の施設認定状況が報告された。

(15) 処遇改善・男女共同参画委員会

今秋の定期学術集会学会企画2「男女共同参画」テーマ「男女ともに輝ける胸部外科医を目指して」の内容が報告された。また、本委員会は女性医師との連携を深める必要があり、日本胸部外科女性医師の会の世話人から活動内容が報告された。引き続き日本胸部外科女性医師の会を支援することを再確認した。

(16) チーム医療推進委員会

第72回定期学術集会における特別企画「医師の働き方改革・2024問題副題：働き方改革落ちこぼれ施設ゼロを目指して」を企画したことが報告された。また、日本外科学会作成の外科領域におけるタスクシフティングでは、心臓血管外科領域で不十分であるので、「ICU術後管理パッケージWG」を本会、日本心臓血管外科学会、血管外科学会の3学会から委員を選出し、カスタマイズを行う。

(17) 国際委員会

2020年度JATSフェロシップ収支予算書が提出され、承認した。収入は寄付金と本会からの助成金で800万円、支出は奨学金、トラベルグラント、学術集会帰朝報告会等に800万円です0である。報告事項は2019年度JATSフェロシップ、JATS/AATS Foundation Fellowship審査結果、第72回定期学術集会における2018年度JATSフェロシップ帰朝報告会を開催、第72回定期学術集会トラベルグラント、海外学会での広報などである。

(18) J-MACS委員会

6月18日に開催された委員会議事録が報告された。今後の費用圧縮に関してはWGを中心に検討する。

(19) 一般社団法人化委員会

今までの委員会及び理事会で検討されてきた定款(案)、施行細則(案)及び懲戒規則(案)の最終版が提出され、検討した。今後は、本日承認された各種規則に対して、2019年8月中旬にパブリックコメントを求め、9月理事会で最終版を決定し、評議員会及び総会に諮る予定である。来年の評議員選挙を社団法人の選挙で行うことが提案され、一般社団法人への登記を早めることなどのスケジュールを述べて、評議員会・総会の承認を経ておけば可能とのことである。次回理事会で、一般社団法人の移行に関する次の方策を審議する。

一般社団法人定款施行細則(案)では、統括会長も分野会長も再任はできないものとなっているが、分野会長経験者が統括会長をできるのかとの質問がだされ、検討の結果、現状のままとすることで承認された。

懲戒規則(案)では、今までは除名だけであったが、懲戒(会員資格の停止など)を定款に入れたので、日本外科学会の懲戒規則をもとに、新たに懲戒規則(案)を作成した。日本外科学会ではその都度、調査委員会を立ち上げることになっているが、本会では倫理・安全管理委員会が担当する。

2. その他

3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会の現状と法人化

現状では、毎年5,000名を超える受験者があり、現時点では認定登録者は40,000人以上で、任意団体が安全かつ健全に事業を推進するには限界がきており、法人化した方がよいとの委員会での結論が報告された。法人化に当たってメリット、デメリット及び平成30年度収支決算書が報告され、承認することとした。

日本胸部外科学会 第6回理事会 2019年9月18日(水) 13:00～17:00

1. 新理事長の選出

選挙管理委員長から理事長候補者推薦書の開封作業の結果、2名が理事長候補者として選出されたことが報告され、定款施行細則第7条に則り選挙となった。所信表明後、投票が行われ、新理事長が選出された。副理事長が指名され、本理事会として承認した。なお、理事長及び副理事長の就任に当たっては、定款施行細則第7条6項により、評議員会及び総会の承認が必要である。

2. 各種委員会報告及び協議事項

(1) 理事会報告

審議事項

1) TAVIハンズオン共催

Hybrid Surgeon ClubとしてTAVIハンズオンを企画について胸部外科学会時に開催する件は、要望書及び会則が提示され、共催という形とすることを承認した。

2) 韓国胸部外科学会との申し合わせ

日本との学術交流の手始めとしてMOUが提出された。前向きに進める。

3) ePTFE肺動脈用弁付きコンデュイットの革新的医療機器条件早期承認制度の利用に関する協力お願い

本会として要望書を提出する。

4) 日本外科学会「学術集会のあり方WGサブスペル学会理事長との懇談」

学会が多く若い外科医の負担になっているので

まとめることはできないが、案としては日本外科学会時に各サブスペを一緒にできないかとの提案である。検討を始めたことが報告された。

報告事項

1) AATS/JATS Aortic Symposium in Kyoto 2019
寄付金を支出することが確認された。2020年はMitralが開催される。

2) 理事会報告

議事資料掲載予定の第1回から第5回までの理事会決定事項が提出された。

(2) 総合将来計画委員会

学術集会担当者2名の採用、統括会長及び分野会長の選出方法と予定、2020年評議員選挙、食道外科専門医申請条件から本会会員が削除された件などが報告された。

(3) 専門医制度委員会

2019年9月11日医道審議会が開催され、厚生労働大臣から日本外科学会への意見及び要請として、プログラム制では専門研修プログラムの全期間において研修先が計画されているプログラムのみ認定され、研修先が未定の期間があるプログラムは募集を認めないことが報告された。また、医師の地域的な適正分布のためのデータベース化事業が日本専門医機構に予算化されたことが報告された。

1) 心臓血管外科専門医認定機構

申請の認定状況、申請条件、再取得・認定登録医制度の導入、新専門医制度、HPリニューアルを杏林舎に依頼している。

2) 食道外科専門医

現在の食道外科専門医数及び認定施設数などが報告され、2019年11月30日(土)に試験を行う。

(4) 選挙管理委員会

理事長候補者推薦制度について、この案内を提出する理事会において、詳しい説明を行う。

(5) 会誌編集委員会

現在の投稿状況(新規338編)、審査期間104日、掲載までの期間Original ArticleとCase ReportはAcceptから約11日と2週間以内でOn line First出版、Acceptから冊子に掲載される平均期間236日、Case ReportのAccept状況(27.5%)は引き続き厳しく審査、年間ページ数の増加、Impact Factor最初の値は1.219、GTCs Special issue発行準備、Best Reviewer賞選考結果、優秀論文賞選考結果、広報活動、Thoracic and Cardiovascular Surgery in Japan in 2016、JCVSD報告(2015年、2016年分:5編)掲載、J-MACS Reportは今後掲載予定、Springer: License to publish(LTP)への移行、Reviewerリスト情報の整理などが報告された。

(6) 学術集会委員会

1) 本年度の検討事項

委員会委員、今後の学術集会会長分野の予定、第71回学術集会のまとめと今後への展開、学術集会プログラム内容、AATS Aortic Symposiumなどが報告された。

2) 第71回学術集会報告

過去最高の参加者(3,516名)、国際化を意識して連日4会場で日・英双方向の同時通訳を導入しスライドは16:9を標準で英語版プログラムを作成、応募演題は1,297題で採択数946題採択率は72.9%、海外から45題の演題応募があり、特にアジアからの上位10演題にThe 2nd JATS Asian traveling fellow Shipを授与、Creativeな企画としてTechno-Academy、Surgical Colosseumを新設、特別企画のテクノアカデミーは13セッション、合同シンポ「胸部外科医が働き方改革で求めるべきは何か」、理事長講演「変貌する日本胸部外科学会」を企画したことが報告された。

3) 第72回学術集会報告

アジアトラベルフェロー受賞者は18名で決定(International Sessionで発表)、海外招聘者35名、事前登録を2019年10月10日まで実施、10月31日(木)会長招宴、11月1日(金)通常総会、11月2日(土)Postgraduate Course3つのセミナー開催、11月3日(日)AATS/JATS Aortic Symposium in Kyoto 2019の開催、クレジット一覧の専門医共通講習の「シンポ1. 胸部外科とIPS・再生医療」は外科領域講習に変更する。

4) 第73回学術集会

2020年度の名誉会員としてRichard D Weisel先生が推薦され、本理事会として承認した。

(7) 財務委員会

1) NPO法人令和1年度活動計算書

経常収益計42,700万円(受取会費11,900万円、事業収益は学術集会20,200万円等)、経常費用計42,414万円(事業費計35,500万円、管理費計6,910万円)、収益が費用を306万円上回ったが、

法人税等が655万円のため正味財産は349万円の減少となった。詳細については事業別損益が報告され、承認された。70周年記念誌作成発送という事業があったが350万円の減少で済んだ。なお、次期繰越正味財産額には震災等の対応のための利用も含まれている。

また、第71回定期術集収支決算書の詳細が報告された。

2) NPO法人令和2年度活動予算書

経常収益計39,300万円(受取会費11,500万円、事業収益は学術集会18,000万円等)、事業費計32,244万円、管理費計13,203万円(来年4月に一般社団法人への移行に伴う寄付金6,000万円を計上)、経常費用計45,448万円、当期経常増減額は6,068万円(実質68万円)の減少となった。詳細は事業別損益が報告され、承認された。

3) 一般社団法人2020年度損益予算書(令和2年4月1日～7月31日)

寄付金収入6,000万円が報告され、承認された。

(8) 倫理・安全管理委員会

日本外科学会の学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針に基づき第73回学術集会の演題応募から適用予定、第72回定期学術集会における医療安全講習会を企画し開催、医療事故調査外部委員派遣依頼が3件、心臓血管外科ライブ手術届出3件の受理、日本医療安全調査機構からの個別調査部会員の選任体制についての名簿更新などが報告された。

(9) 診療問題委員会

令和2年度における診療報酬改定に向けた活動、本会が主学会である「経カテーテル大動脈弁置換術」について改正要望書を提出したこと、SSRリスク低減用NPWT機器の適正使用に係る提言、外保連AI診療作業部会に委員推薦などが報告された。

(10) 研究・教育委員会

1) JATS Academy

学会HPにビジュアルスライダーと周知ページを設置。ニュースレターに手術ビデオ提供者メッセージを掲載、第2弾として56本の公開を予定している。

2) JATS Research Project Award

第1回は受賞者から新着報告を受領し、基金に拠出した15社をNLに掲載。第2回は臨床研究助成1題、若手研究助成3題を選出、基金は2019年9月の1社入金をもって目標金額250万円に到達予定である。

3) NCD臨床研究推進委員会「NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題募集のお知らせ」

2018年の2件は実現に向け検討中。2019年は申請者が無く、今回は見送る。

4) サマースクール

両分野とも2019年8月17日(土)、18日(日)に終了した。企業から学生には無償でデバイスなどを提供できないので来年度から有償になる。

5) Postgraduate Course

心臓分野は2022年の胸部外科・心臓血管外科まで策定。呼吸器分野は2022年まで策定、食道分野は2020年まで策定している。

(11) 総務・渉外委員会

審議事項

1) Web会議システム

上記導入についての経緯とメリット及び課題が報告され、事務局から機種が紹介された。4つのサービス(コネクティブ、Webex、Zoom、マイクロソフト)を使い比べ、更に大きな規模を目指すかどうかは検討事項とする。

2) 事務局のあり方

日本心臓血管外科学会及び日本血管外科学会理事長から、上記について協議したいとの要望書が提出された。検討の結果、各学会から委員を2名程出して協議会を組織し、話し合いをスタートする。

(12) 臓器移植委員会

脳死移植登録患者数、移植数、心臓・肺移植実施施設の更新制は導入に向けて関連学会で検討中、新規小児心臓移植施設は現在評価中である。

(13) COI委員会

役員及び当該委員会委員に利益相反自己申告書の提出を求め、78名から提出いただき、事務局で厳重に保管している。

(14) 地方会のあり方委員会

2020年8月から本会と地方会の一体化事業が開始されるが、地方会代表者の本会理事会へのオブザーバーとしての出席を認める提案がだされたが、引き続き検討する。

(15) J-MACS委員会

補助人工心臓レジストリーについての進捗状

況、データ利用(2018年J-MACSデータを利用した学会発表4題、論文3題)、Statistical Report オープンアクセス費用は本委員会負担、J-MACS実施計画書の変更、2021年4月以降の次期運営体制WGの立ち上げなどが報告された。

(16) 一般社団法人化委員会

前回理事会で承認された一般社団法人定款等についてパブリックコメントを求めた結果で若干の訂正を行った定款等が提出された。また、本理事会でも質疑応答を行った結果の定款等を評議員会及び総会に諮る。

1) 定款における相違点

評議員がすべての会員の意見を代表しているのかの質問があり、検討した。

2) 施行細則における相違点

評議員数を大幅に増員、役員が統括会長あるいは分野会長に選任された場合、辞任届を提出するという内容である。

細則12章、13章役員が統括会長あるいは分野会長に選任されたら辞任届を提出するところがあるが、その際補充はされないのかとの質問がだされた。

任期途中の役員が統括会長になった場合、1年間任期があるため、該当者が選出された評議員選挙での次点者を繰り上げることができるが、いなければ空席となる。

一般社団法人では会長及び分野会長の1年間だけ理事から外れる。現状では、副会長及び次期副会長は当で職で理事であるが、一般社団法人では理事でなくなるので役員として残りたい場合は、理事ないし監事に立候補しなければならないが、立候補しなければオブザーバーとして理事会には出席できる。

3) 定款施行細則における附則

以下の項目について行政書士から報告された。2020年4月1日を設立予定日としているが、その日付も評議員会及び総会の議決をとらねばならない。次回評議員選挙(2020年6月投票)は社団法人の定款及び施行細則で行うことを評議員会・総会で承認を得る。

附則については、本則と違うのでパブリックコメントを求めておらず、設立時社員は2名で公開はされないが、住所と氏名は永続的に残るこ

とになる。代表理事は印鑑証明が必要となる。NPO法人はすぐには解散せず、2022年の総会で解散(清算人1名も承認)の承認を得て、2023年8月31日を解散予定としている。役員は、一般社団法人の会員になりながらNPO法人の会員であり続ける。会員の権利義務は2020年の8月1日から社団法人になるということは今秋の評議員会で説明する必要がある。NPO法人と一般社団法人が数年続くが、NPO法人の会費は免除となる。

(17) 日本心臓血管外科手術データベース機構

インターネットを介したデータ収集の継続、サイトビジットの継続遂行、データ利用状況、胸部外科学会学術調査に関する現状、JapanSCORE2のスマートフォンアプリのリリース、医療の質向上に関わるプロジェクト、業務遂行に対する本会へのさらなる協力要請などが報告された。

(18) 補助人工心臓治療関連学会協議会

2019年実施施設・実施医・管理施設認定状況、植込型補助人工心臓治療の進捗状況、長期長期入院症例におけるC116の算定見直し、管理医認定WG、DTWG、インペラ部会について報告された。

(19) 径カテーテルの心臓弁治療関連学会協議会

実施状況、実施施設認定状況などが報告された。

(20) 日本ステントグラフト実施基準管理委員会

委員会開催状況、審査状況及び追跡調査登録状況、2018年及び2019年更新施設、法人化、レジストリーの変更について報告された。胸腹部大動脈瘤(TAAA)はNCD-血管外科レジストリー並びにJCVSDレジストリーの両方から登録される領域となっており、両レジストリーデータのとりまとめ段階で、正確な症例数をつかめない状況となっていたが、それぞれの担当者の話し合いで統一されたフォーマットにて、領域の入力を行うこととした。

3. その他

(1) 日本医学会連合会費納入の件

2019年度会費を会員数に応じて算出した金額を支払うことを承認した。

(2) 体外循環及び人工心臓試験委員会分担金

上記試験委員会分担金を支払うことを承認した。

日本胸部外科学会 第1回臨時理事会 2019年10月30日(水) 14:00 ~ 15:00

1. 通常評議員会・通常総会の議事進行の打ち合わせ

上記議事進行のマニュアルが確認された。

2. 理事会・委員会審議、報告事項

(1) 理事会

韓国胸部外科学会との交流

理事長が覚書を取り交わしてきたことが報告された。今年はAsian Travelling Fellowshipで韓国から採用したがそのセッションは組まれていないので来年度、韓国からのセッションを組む(心・肺・食の領域は相談による)よう会長が采配してほしいとのことである。検討の結果、今後、前向きに進めることを再確認した。

(2) 一般社団法人化委員会

パブリックコメントの2つの意見に回答することが決定した。

(3) 研究・教育委員会

1) 心臓血管外科サマースクール2019収支報告書の件

収支決算報告書が提出され、承認された。

2) NCD臨床研究推進委員会「NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題募集」について

前回理事会では申請者がいないということで、見送る結論となったが、今回は「NCD・JCVSDを利用した急性大動脈解離外科治療の実態調査研究」を申請することが承認された。

(4) 第74回学術集会

第74回の分野会長として、呼吸器分野は慶應義塾大学の浅村 尚生先生、食道分野は同大学の北川 雄光先生が推薦され、本理事会で承認した。

(5) 専門医制度委員会

専門医制度整備指針(案)(第三版)、サブスペ領域専門研修細則が発表されたことが報告された。また、呼吸器外科専門医合同委員から、専門研修基幹施設の資格条件を変更したことが報告され、承認された。

(6) 診療問題委員会

AI診療に関わる費用を外保連試案にどのように組み込むかを検討予定である。

3. その他

イージーグライド大動脈カニューレNCに問題が発覚し、自主的に回収していることが報告された。

日本胸部外科学会 新旧引継ぎ理事会 2019年11月2日(土) 7:00 ~ 7:30

1. 退任の挨拶と新任の挨拶

(3) 地方会のあり方委員会

本会と地方会の一体化が2020年8月にスタートするに伴い、会員情報のデータを収受するに際しての地方会事務局との誓約書を作成したことが報告された。

2. 理事会・委員会 審議・報告事項

(1) 選挙評議員定数の件

2020年6月に実施される評議員選挙(一般社団法人定款施行細則に沿って実施)の選挙評議員定数を選挙評議員定数は400名、推薦は30名の430名を選出する。

(2) 第73回学術集会日程の件

2020年の学術集会の日程(案)が提出された。今回は1日短縮した日程案である。

検討の結果、従来型に戻すことが承認された。

(4) 総務・渉外委員会

事務局移転に伴い、日本心臓血管外科学会及び日本血管外科学会からの申し出もあり、2019年10月8日(火)心機構総会後に開催されたことが報告された。

Passion for the Future

第50回日本心臓血管外科学会学術総会開催にあたって

横山 斉 第50回日本心臓血管外科学会学術総会会長／福島県立医科大学医学部心臓血管外科学講座 教授

第50回日本心臓血管外科学会学術総会を2020年3月2日(月)から4日(水)まで福島市で開催させていただくことになりました(卒後研修セミナーは3月1日(日))。福島での開催は初めてとなります。伝統と実績のある本学会の学術総会

を開催できることは、私どもにとって大変な栄誉であり関係役員の方々、また会員の皆様方に心より御礼申し上げます。

今回は50周年の記念大会です。もう50年、まだ50年、、、想いは様々です。これまでの50年を振り返る企画もこれからの

50年を考える企画も準備しております。

会場は、東北新幹線福島駅西口から徒歩1分の福島コラッセを中心とした徒歩圏内5つの会場を使用します。新幹線福島駅は、東京から90分、仙台から30分、郡山から15分です。会場間は徒歩も可能ですが、シャトルバスを巡回させ利便性を高めます。周辺にはホテルも豊富にあります。車で20分の温泉街(飯坂温泉、土湯温泉、高湯温泉等)にお泊まりいただくのもまた一興です。

3月初旬の福島市は、ポカポカ天気のことありますが、小雪がちらつくこともあります。コートとマフラーはご準備ください。近年の新酒鑑評会で金賞受賞蔵が全国一多いのが福島です。寒いときは是非地酒であったまってください。ま



た、学会の合間には福島の観光をお楽しみください。近隣には秘湯が多く点在していますし、少し足を延ばせば磐梯山、猪苗代湖や会津若松など見所もあります。多くの皆様にご参加いただけますこと、心より楽しみにしております。

プログラム

50周年企画

- 心臓血管外科の「過去・現在・未来」
- 今さら聞けない心臓血管外科標準術式(同時出版企画)
- エキスパートが分析する「術中危機的状況」：ピットフォールとリカバリー

特別企画

- 『働き方改革』は、心臓血管外科医の生活をどう変えるか?
- 心臓血管外科専門医制度の現況と展望
- JCUSD Annual Report/特別サイトビジットからの教訓
- 予想外の大動脈遮断時間の延長～チームとしてどう立ち向かうか～
- 其々の地域で求められる心臓血管外科医—若手医師の10年後、20年後—
- 心臓血管外科診療の費用対効果を検証する
- 外科班長が解説する「新しい診療ガイドラインの考え方」
- Off the Job Training: 世界の潮流

医療安全講習会

- ノンテクニカルスキルを学んで強いチームを作る

シンポジウム

- 小児期の房室弁に対する外科治療
- 本邦の冠血行再建治療の現況: PCIとCABGの棲み分け
- 複雑病変に対する僧帽弁形成術とその長期成績
- 大動脈基部病変に対する治療戦略
- 弓部大動脈瘤に対するステントグラフト治療は従来手術を超えるか?
- 企業製胸部ステントグラフトの使い分け: あなたならどうする?
- 腹部大動脈瘤の治療戦略: ステントグラフトと人工血管置換術の使い分け
- TASC C/D病変に対する至適下肢血行再建のあり方
- 大静脈・末梢静脈疾患の外科と血管内治療の最前線
- Destination Therapy普及に向けての課題
- 若手外科医のトレーニング: 様々な課題と取り組み



横山 斉
所属: 福島県立医科大学医学部心臓血管外科学講座
経歴:
1983年 東北大学医学部卒業
1994年 Medical College of Pennsylvania / Hahnemann University 心臓外科研究員(上原生命科学記念財団海外留学奨学生)
1999年 東北大学医学部心臓血管外科学講座 講師
2001年 福島県立医科大学医学部心臓血管外科学講座 教授
趣味: ゴルフ
好きな言葉: 鬼手仏心

若手・中堅胸部外科医の皆さんへ JATS Academy 2018.10 OPEN!

先日新たに55本のビデオが公開され、ラインナップは3分野計100本を超えるまでになりました。

その第1弾に、丁寧なナレーションで好評のビデオをご提供いただいた北村 律先生から若手・中堅外科医の皆さんへのメッセージを頂戴しました。

手術ビデオ提供者からのメッセージ Vol.2



外科を志した理由は人それぞれ違うかもしれませんが、「手術がやりたい」というモチベーションは皆共通の動機ではないでしょうか。学年が上がると少しずつ、教えられる側から教える側に立場はシフトしていきませんが、どの世代の外科医でも他人の手術から学ぶことは沢山あります。手術室全体のセッティング、雰囲気やコミュニケーション、術者の体の向きや左手の使い方、助手やコメディカルの配置、予

期せぬ状況でのリカバリーショットなどは実際に見学しないと分かりません。しかし、術式を理解する上で最も重要なのは模範的な手術を見ることです。枝葉末節はある程度省かれていても構いません。そこでJATS Academyのビデオ・ライブラリーです。YouTubeで手術動画を見るのもいいのですが、このビデオ・ライブラリーには、見たことのある、知っている外科医の手術が沢山アップされています。修練医

北村 律 (北里大学医学部 心臓血管外科 准教授)

は指導医のやり方をコピーするのが基本ですが、あまり経験のない手術を執刀する前に手術の流れを確認するのに使ったり、学会のビデオセッションなどで気になる術式や外科医を目にしたら、それを糸口に検索したりしてもいいですし、若手同士でカンファ室であれこれ言いながら観るのもいいと思います。上司も解説者として加わるといいと思います。100本以上もあります。ぜひ御活用ください。

編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。この度、新しく日本胸部外科学会の理事を拝命し、広報委員会委員長を拝命いたしました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

本学会では近年様々な議論のもとで改革が進められてきており、大きな変革期に差しかかっています。対象疾患や治療方針、手術方法がどんどん変化し、働き方改革など胸部外科医を取りまく環境も今後大きく変わっていくとしているなかで、今後当学会はどのように進んでいくべきなのか。巻頭に本学会の新理事長である澤芳樹先生から今後の発展のための3つのchanceと5つのmissionというわかりやすい形で目標を示していただきました。

一方で、このニュースレターは胸部外科の日常の診療、国際的な動向、学術集など旬の話題をダイジェスト的に編集し、会員や胸部外科領域に関心を持つ若手医師に気軽に読んでもらえるものを目指して編集されています。そういった意味からは今後、若手医師にとってニーズの高い情報、胸部外科に入ることを考えているが迷っている学生、研修医、女性医師などの皆さんの心に響く記事、魅力ある内容の紙面を作っていく必要があると思っております。皆様からも様々な企画をご提案いただければ幸いです。

広報委員会委員長 松宮 護郎



松宮 護郎
所属: 千葉大学心臓血管外科
1986年 大阪大学医学部医学科卒業
1986年 大阪大学医学部附属病院第一外科研修医
1987年 国立呉病院外科、心臓血管外科レジデント
1994年 大阪大学大学院医学系研究科博士課程(外科学第一)修了
1994年 ロマリンダ大学胸部心臓血管外科リサーチフェロー
1996年 クリーブランドクリニック胸部心臓血管外科クリニカルフェロー
1999年 大阪大学外科学第一講座助手
2006年 大阪大学心臓血管外科助教授
2009年 千葉大学大学院医学研究科心臓血管外科教授
趣味: ゴルフ、野球観戦(広島カープファン)
好きな言葉: 神は細部に宿る 不言実行

日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

No.52
2020年1月10日発行

発行◎特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◎03-3812-4253 FAX◎03-3816-4560
URL◎http://www.jpats.org/

編集◎日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◎jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◎株式会社 杏林舎